



# 学校だより



令和8年1月29日  
特別号  
調布市立第一小学校  
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho/>

TEL042(481)7636

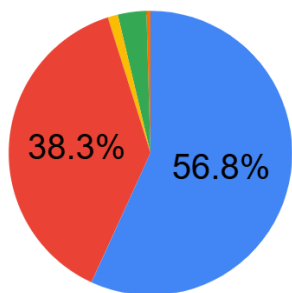
## 第一小学校 学校アンケートまとめ（令和7年度）

ご多用の中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。児童数 716 名に対して 435 名からご回答いただき、回答率は約 61%でした。学校アンケートの結果を以下のようにまとめましたので、お知らせいたします。また、4 年生～6 年生対象に同じ内容で行ったアンケートも併せてご覧ください。（児童に質問する際は、自分を主語にして質問しています。）保護者の皆様からの貴重なご意見は来年度の計画に生かし、第一小学校の教育活動をよりよいものにしていきます。

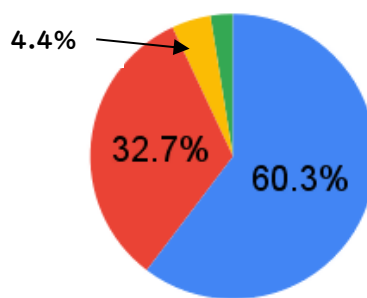
● ①そう思う ● ②だいたいそう思う ● ③あまりそう思うわない ● ④思わない ● ⑤分からない

### ① お子さんは、学校での生活を楽しんでいる。

保護者



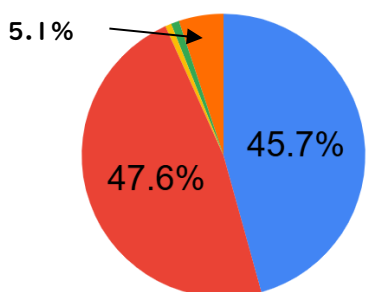
児童



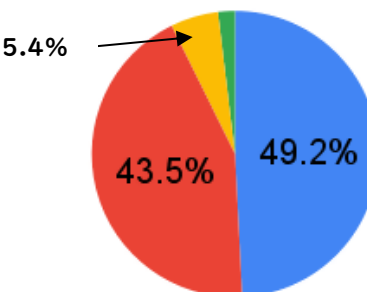
保護者の肯定的評価が95.1%と一番高い項目となっています。児童の肯定的評価においても昨年度に引き続き高い評価となっています。否定的に答えている児童が存在していることを忘れず、今後も子どもたちの様子を丁寧に見て、細やかに対応していきます。

### ② お子さんは、学校での学習内容を理解している。

保護者



児童

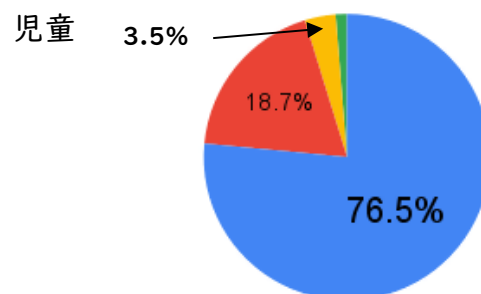
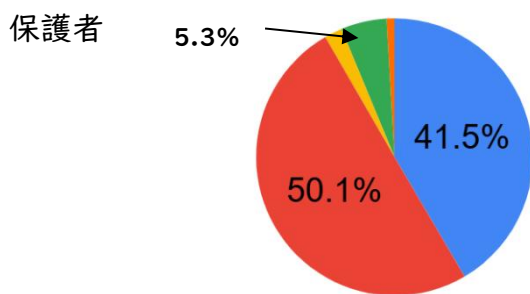


児童の肯定的評価が昨年度より3ポイントアップしました。保護者・児童共に約93%の肯定的評価です。しかし、「計算問題はできるが、考えなければ答えられない問題は理解できていない。」というご意見がありました。様々な教科を通して、知識だけでなく思考力や判断力を十分に身に付けさせられるよう指導していきます。

③ お子さんは、すすんで学習に取り組み、自分の考えや思いを話せる力が育っている。	
保護者	児童
<p>主体性と表現力は、児童に身に付けさせたい大切な力です。今年度「表現を豊かにする言語活動の工夫」をテーマに校内研究を行いました。児童が自分の考えを伝えるにためによりよい表現を追求できる機会を増やしてきました。今後も安心して学習・発言できる環境づくりに努め、発達段階に応じた表現スキルを身に付けられるよう、研究を重ねていきます。</p>	
④ 算数習熟度別指導（3～6年）や少人数指導やTT指導（1・2年）は、子どもたち一人一人の学力を上げるために効果的である。（TT指導⇒担任＋複数の教員による指導）。	
保護者	児童
<p>保護者・児童ともに高い肯定的評価でした。3年生以上は、「ぞう」「かえる」「ねこ」という名称で、それぞれ「発展・拡充」「基礎・習熟」「基礎・補充」のグループに分かれて指導しています。今後も児童が学習内容を確実に身に付け、効果的に一人ひとりの状況に合わせて丁寧に指導を行い、児童が学習への自信をもてるように指導をつなげていきます。</p>	
⑤ お子さんは、読書に関心をもち、すすんで読書をしている。	
保護者	児童
<p>保護者・児童ともに肯定的評価が最も低い項目です。タブレット端末の普及や放課後の過ごし方の多様化により、子どもたちは落ち着いて本を開く時間が減少していること</p>	

が推察されます。学校では、「おすすめ本リスト」の配布や、図書委員児童や教員の「おすすめの一冊」の紹介、また、読んだ本の記録を可視化できる読書記録を児童一人一人行っております。読書は語彙を養うだけでなく、創造力や共感力を育む大切な活動です。学校と家庭が手を取り合い「生涯にわたる読書家」となる第一歩を支えていきたいと考えております。ぜひお子さまの読書記録をご覧ください、読んだ本について話題にしていいただければと思います。

⑥学校は、文化文芸的な活動や読書活動の推進を通して、潤いのある心を育む取組や指導を行っている。

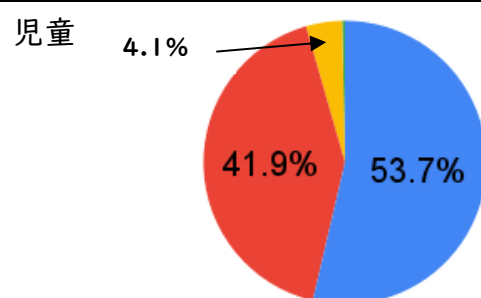
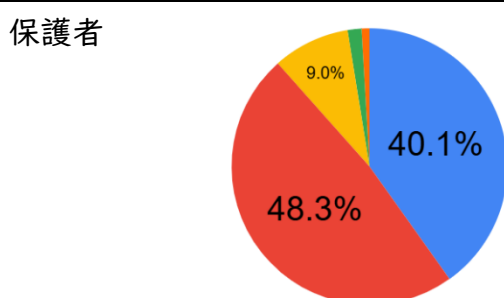


読書活動や文化文芸的な活動を充実させた学校取組に対して、保護者の方からも高評価をいただいています。児童が「そう思う」と答えた割合も一番多いです。

今年度は、オペラ歌手を招いた歌唱鑑賞（6年生）、尺八とギター演奏による音楽鑑賞教室（低学年）、エコ川柳コンテストへの参加（4年生）などを行ってきました。

今後も本校の経営方針の一つである「児童の豊かな心の醸成」を図るため、取組を充実させていきます。

⑦お子さんは、すすんであいさつをしたり、約束や決まりを守ったりして生活している。

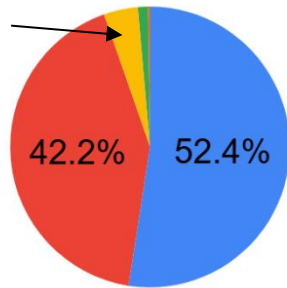


保護者と児童で回答に差がある設問です。児童は「そう思う」と答えている割合が半数を超えていますが、保護者は10%以上否定的回答をしています。発達段階に応じて、日々の生活の中であいさつの指導をしていくことや「一小のきまり」を活用し規範意識の醸成を図れるようにするなど、今後も教職員が連携して指導していきます。

⑧お子さんは、友達と互いの良さを認め合い、仲良く協力して活動している。

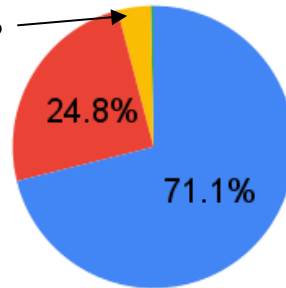
保護者

3.9%



児童

3.8%

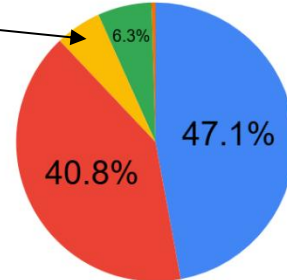


昨年度に引き続き、高評価となっています。児童自身が「そう思う」と答えた割合がとて高いです。普段の生活や行事を通して、友達と仲良く協力できていると自信をもって答える姿にもうれしく思います。

⑨学校は、地域の特色を生かした教材や外部講師を招いての出前授業等や、特別支援学級また、さまざまな学校との交流を通して、学習活動を充実させている。

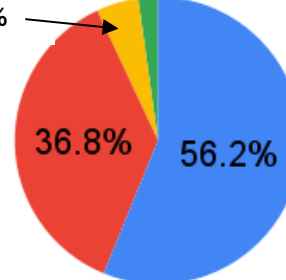
保護者

5.3%



児童

4.8%

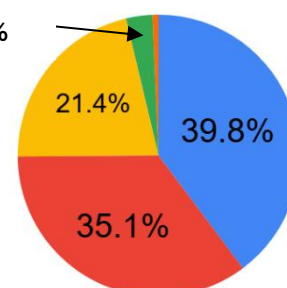


2年生は地域の多くの方の力を借りて、様々なお店や公共施設にインタビューに伺わせていただきました。地域の方々と関わりながら学ぶことで、「自分たちの地域」への誇りや愛着を育む貴重な機会をなっています。また、3年生は特別支援学校と、5年生はアメリカンスクールとの交流を行っています。多様な価値観に触れたり思考の柔軟さや思いやりの心を育んだりする学習機会として、今後も学習活動を充実させていきます。

⑩お子さんは、すすんで運動をしている。

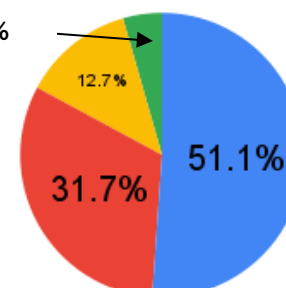
保護者

3.0%



児童

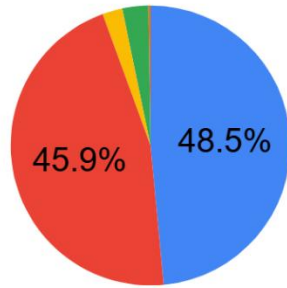
4.4%



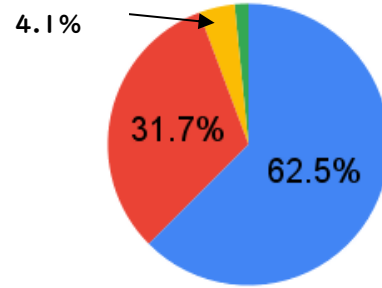
昨年度より肯定的評価が約3ポイント上がりました。「ちょこプラ！」の活動として、各クラスで考えたストレッチなどを行ったり、体育委員が主体となって児童に外遊びを奨励したりする活動が実施できたことはとても大きいです。

⑪学校は、体育的活動、保健指導の充実、食育の推進などを通して健やかな体を作る取組や指導を行っている。

保護者



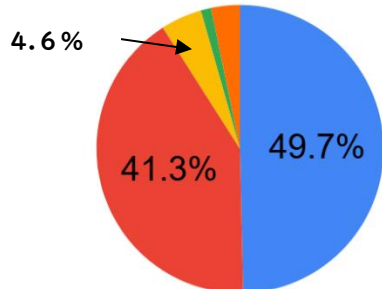
児童



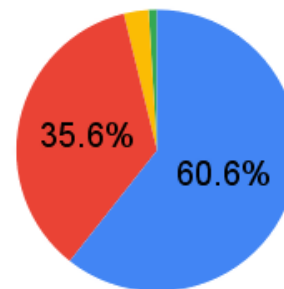
養護教諭が毎学期に発達段階に応じ保健指導を行っています。今年度は、「アンガーマネジメント」や「レジリエンス」など体と心が密接に関わって健康な身体が作れることを学んでいます。さらに、「縄跳び世界チャンピオンによる短縄・長縄・ダブルダッチの出前授業」（５・６年生）や「東京 2025 デフリンピック」への観戦や出場する選手を招いての出前授業（４年生）を行いました。今後も児童が健康への関心を高める環境づくりを行っていきます。

⑫学校は、タブレット端末やプロジェクターなどの教育機器を活用している。

保護者



児童

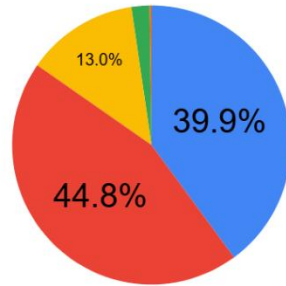


児童用タブレットでは、インターネットを活用した調べ学習、オクリンクプラスというソフトでの友達との意見交換、プレゼンテーションソフトを使った発表資料作り、ドリルパークでの計算練習などを行っています。活用場面は増えているものの、保護者の中から「検索して調べる力も大事だが、子どもたちが正しく情報収集ができているのか、情報源の正確性の保証はどう得ているのかなど、気になる点が多々有る。」とのご意見をいただきました。児童用タブレットでの検索の場合、教育上配慮が必要であり危険なサイトについては規制をかけています。また、インターネットの情報を使って発表する場合は、発信元やいつの情報を確認すること、出典を明記することなどの注意点を合わせて指導を行っています。

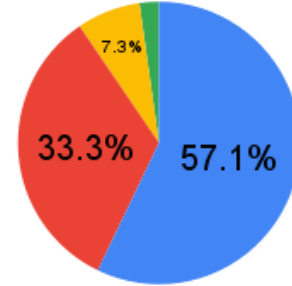


⑬家庭では、児童用タブレット端末、スマートフォン、ゲーム機、iPad 等の ICT 機器や SNS のルールを定め、守らせている。

保護者



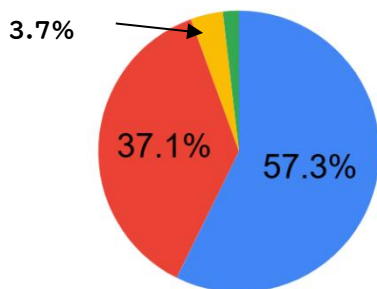
児童



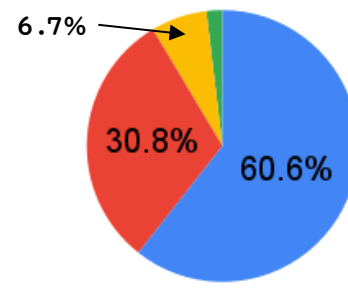
保護者と児童の回答に差が見られる項目です。児童は守っていると思っても保護者がそう感じてないことが多いことが分かります。また、全体として高い意識で取り組んでいるご家庭が多いと思いますが、ICT 機器の管理の難しさを感じているご家庭も一部ございます。最近では、高学年になると個人用のスマートフォンを所有している児童が増え、トラブルも起きています。学校では適切な使い方の指導を継続していきます。ご家庭でのルール運用に困った際は、学校へご相談ください。

⑭教職員は、保護者からの連絡や相談に親身になって対応している。

保護者



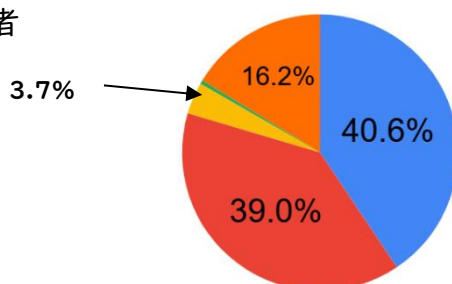
児童



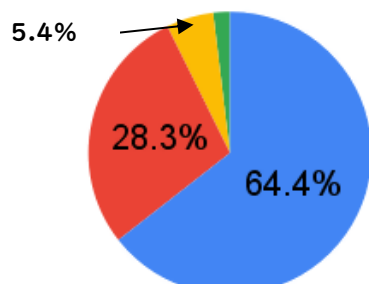
肯定的評価がとても高いです。「子供について悩みがあるときは、先生方皆様でご対応頂いていて、本当に感謝でいっぱいです。」というご意見をいただきました。今後も教職員一同、児童に寄り添った対応をしてまいります。

⑮学校は、子ども同士のトラブルやいじめに対して、迅速にかつ真摯に対応している。

保護者

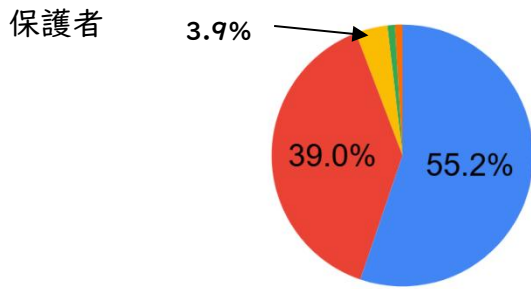


児童



「子ども同士のトラブルに迅速に対応してくださりありがとうございます。」というご意見を複数いただきました。また、「わからない」と回答した理由に「子どもがそのような問題に関わったことがない。」との意見がありました。少数であっても保護者・児童の中に否定的回答があったことを忘れず、子ども同士のトラブルに対して迅速に丁寧に対応してまいります。

⑯学校・保健・給食だよりやホームページ・「すぐーる」等によって、必要な情報を知ることができる。



「学校便りを早くいただきたい」という意見をいただきました。4月当初にお配りしている年間行事予定や授業時間数については、基本的には変わりません。変更になる場合は、分かり次第すぐに「すぐーる」などでお知らせいたします。

また、「プリント、ホームページ、すぐーる、classroomなど色々あって分かりづらい。情報を一つに集約してほしい。」というご意見をいただきました。連絡は、できるだけ『すぐーる』で配信していきます。ご自身のスマートフォンでの確認をお願いいたします。ただし、児童への連絡にも関わる「学校便り」「給食便り」「保健便り」につきましては、今後は、「すぐーる」と紙面でも同時配布といたします。

タブレットの「classroom」は、学年や担任によって宿題や持ち物を連絡しています。学級によって異なりますので、お子さまと一緒に確認をお願いします。

肯定的に答えた保護者・児童がとても多い項目です。引き続き、学校生活が児童にとって楽しいものであるよう、100%を目指します。